



Oracle® Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise
Edition

リリース 11.1.2.3.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

目的	2
このリリースでの新機能	2
インストール情報	5
サポートされているプラットフォーム	5
サポートされている言語	6
サポートされているこのリリースへのパス	6
このリリースで修正された問題	6
既知の問題	7
アップグレードするお客様の FDMEE 手動構成手順	11
ODI Studio のインストール	14
SAP の統合	14
ドキュメントの更新事項	14
ドキュメントのフィードバック	15
アクセシビリティの考慮事項	15

目的

このドキュメントには、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition のこのリリースに関する重要な最新情報が含まれています。FDMEE をインストールする前に、この Readme をよくお読みください。

このリリースでの新機能

新規インストール、アーキテクチャおよび配置機能

このリリースのインストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関連する新機能は、Oracle Enterprise Performance Management System Readme のこのリリースの新機能に関する項を参照してください。

Apple モバイル・デバイスでのドキュメントの動作保証

リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、以前から使用可能な MOBI ファイルと EPUB ファイルの 2 つのモバイル・フォーマットで使用できるようになりました。EPUB ドキュメント・ファイルは、すべての Apple モバイル・デバイス (iPad、iPhone および iPod Touch) でサポートされます。EPUB は多くのモバイル・デバイスでサポートされますが、Apple モバイル・デバイスでのみ動作保証されています。追加デバイスも将来的に動作保証されます。

以前のリリースで導入された機能

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 からアップグレードする場合は、Cumulative Feature Overview ツールを使用して、これらのリリース間で追加された新機能のリストを確認します。このツールにより、現在の製品、現在のリリース・バージョンおよびターゲット実装リリース・バージョンを識別できます。1 回のクリックで、ツールは現在とターゲットのリリース間に開発された製品機能の概要説明のカスタマイズされたセットをすばやく生成します。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

このリリースでの新機能

リリース 11.1.2.3 で、FDMEE は、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications (ERP Integrator) と Oracle Hyperion Financial Data Quality Management (FDM) の全機能を備えた後継ツールとして提供されています。FDMEE は両製品の統合として表されます。Oracle Hyperion Financial Data Quality Management の主要な機能を継承し、ユーザーによるメタデータおよ

びデータのロードと、ライトバックおよびドリルスルーを可能にする ERP Integrator フレームワークを保持しています。

レガシー FDM ユーザーのための主要な拡張機能

レガシー FDM ユーザーにとっての主な利点:

- ユーザー・エクスペリエンスの向上 - Oracle Enterprise Performance Management System への統合。FDMEE ユーザー・インターフェースは、Oracle Hyperion Planning および Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・インターフェースと一貫性があります。
- ユーザー・インターフェースおよびデータ・ロード・パフォーマンスの向上
- Oracle Hyperion Shared Services 統合 - Shared Services のすべてのネイティブ機能がサポートされています(例: ユーザー・グループ)。
- 複数のブラウザのサポート - Internet Explorer および Firefox
- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Lifecycle Management のサポート - 他の EPM System 製品と同様の、ライフサイクル管理の一貫したサポート
- サポート・マトリックスで定義されている複数プラットフォームのサポート。Financial Management と統合する場合は、Windows オペレーティング・システムのみがサポートされています
- 整合性のあるスケーリングおよびロード・バランシング - すべてのスケール・アウト構成およびロード・バランシング手順は他の EPM System 製品と整合性があります。

レガシー ERP Integrator ユーザーのための主要な拡張機能

レガシー ERP Integrator ユーザーのための主要な機能拡張:

- ユーザー・エクスペリエンスの向上 - ユーザーが「ワークフロー」機能と「設定」機能間を切り替えることのできる Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のタブに簡単に移動できます。
- FDM ワークフロー・プロセスをサポートします:
 - ソース・データのインポート
 - マッピング・テーブルに対してソース・データを検証する
 - ターゲット・システム・データを検証する
 - 内部財務統制をレビューし検証する
- FDM ロジック・アカウント - ロジック・アカウントとは、動的に生成される勘定科目であり、ソース・ファイルで提供されない補足値の計算に使用されます。
- FDM 確認ルールをサポート - データの整合性を強化する確認ルールを作成します。
- レポート機能 - FDMEE には、組織内のビジネス・クリティカルな操作および収益を創出するアクティビティを取り込むレポート・ツールが組み込まれて

います。新しいレポート機能は、Oracle Business Intelligence Publisher を使用して実装されます。主要機能は次のとおりです:

- ユーザー定義のレポート・クエリ定義
 - 簡単にカスタマイズできる RTF テンプレートに基づく
 - 出力フォーマットは次のとおりです: PDF、Microsoft Word、Microsoft Excel、HTML。
 - 既存の FDM レポートを FDMEE に移行できます。
- .
- スケジュール - 新しいスケジューラにより、特定の日、時刻または固定の間隔でバッチを実行できます。
 - ファイル・ベースのデータ・ロード - ファイル・ベースのデータ・ロードに対する ODI シナリオの再生成要件が排除されました。
 - データ・ルールでの符号のサポート - Oracle E-Business Suite/Fusion/Peoplesoft からデータを抽出する場合、ユーザーは金額に対する符号を選択できるようになりました。データ・ルール・セクションで 3 つの新しい符号オプションを使用できます:
 - 絶対 - 負の性質を持つ勘定科目はソースから反転されます。正の性質を持つ勘定科目はソースと同じままです。
 - ソースと同じ - 符号はソースから変更されません
 - ソースと逆 - 符号はソースと逆になります。
 - データ・ロード・マッピング - 拡張機能は次のとおりです:
 - Oracle Hyperion Financial Data Quality Management のすべてのマッピング・タイプが FDMEE でサポートされるようになりました。
 - 新しい "In" タイプは、順次でないソース勘定科目のリストを 1 つのターゲット勘定科目にマップできます。
 - マッピング・ルールのエクスポートおよびインポートがサポートされるようになりました。
 - マッピング・ルールをデータ・ロード・ルールに関連付けられるようになりました。
 - データ・ロード・ルールは、視点(POV)カテゴリに基づいて表示されるようになりました。
 - データ・ロード・ルールをスケジュールできます。
 - Financial Management アダプタ・パーティ - 次のものに対する主要なサポートが使用可能です:
 - データ保護
 - ライン・アイテムの詳細
 - ロード・プロセス
 - ロード方法
 - 拡張されたプロセス・ロギングおよびエラー処理

- バッチ処理 - 追加されるすべてのルール・タイプのサポートが追加されました。
- 拡張されたシステムおよびセキュリティ・オプション
 - 管理者が FDMEE の特定の機能へのアクセスを定義できる 8 個の追加の中間ロール(2-9)を提供します。

ソース・システムの拡張

このリリースでは、FDMEE は SAP BW (Business Warehouse) データ・ロードをサポートします。

主要機能は次のとおりです:

- SAP BW リリース 7.0 での動作保証
- データ抽出を SAP BW Infocube から使用できます:
 - ユーザーがキューブおよびパッケージ名を提供します。
 - 1 回のボタン・クリックで詳細を FDMEE にインポートします。
 - 統合に必要な ODI 詳細を自動生成します。

ODI のインストールおよび構成

このリリースでは、FDMEE をインストールおよび構成する場合、Oracle Data Integrator は自動的にインストールおよび構成されます。Oracle Data Integrator のデータベースは FDMEE と同じデータベース内にあり、Oracle Data Integrator エージェントは FDMEE 管理対象サーバーに配置されます。

インストール情報

EPM System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme に記載されています。EPM System 製品をインストールする前に、ここに記載された情報をよくお読みください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix でスプレッドシート形式で提供されるようになりました。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN) の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System 製品のサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」タブにスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」 ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードできます:

注意: アップグレード手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース 11.1.2.3 へ
11.1.2.x	リリース 11.1.2.3 にメンテナンス・リリースを適用します。 Oracle Hyperion Financial Close Management では、リリース 11.1.2.1 および 11.1.2.2 からのみメンテナンス・リリースの適用がサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
リリース 11.1.1.0.x から 11.1.1.3.x	リリース 11.1.1.4 にメンテナンス・リリースを適用してから、リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
複数のリリースが含まれている環境。1 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Oracle Hyperion Shared Services のインスタンスが含まれている環境	Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM システム製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する説明を参照してください。

注意: それより前のリリースから始める場合、開始リリースからのアップグレードが直接サポートされるリリースのうち最新のものにアップグレードすることをお勧めします。

このリリースで修正された問題

この項では、リリース 11.1.2.3.000 で修正された不具合を示します。以前のリリース間で修正された不具合のリストを確認するには、Defects Fixed Finder を使用します。このツールでは、ユーザーが所有している製品と、現在の実装リリースを識別できます。1 回のクリックで、ツールは修正された不具合の説明とその関連プラットフォームおよびパッチ番号に関するカスタマイズされたレポートをすばやく生成します。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 14812909 -- メタデータ・ルールで無視オプションが選択されている場合に、孤立が EPMA にインポートされます。
- 14768204 -- 予算は、ベース言語に対してのみ選択できます。
- 14738283 -- データをロードする場合に、E-Business Suite データ・ソースと ERPI 間で CCID の不足が発生します。
- 14695975 -- SID (セキュリティ識別子)を使用している場合にデータ・ルールを実行できません。
- 14646037 -- ソース・システムの初期化を ODI シナリオに関連付けます。
- 14607083 -- インポート・フォーマットで2つのセグメントを連結するときに、明示的なマッピングでソース値を検証できません。
- 14462917 -- 「システム設定」ページは、アプリケーション・ルート・ディレクトリ/ファイル・アーカイブ・ディレクトリに単一引用符(')付きで保存すると空白になります。
- 14269722 -- ターゲット・アプリケーションの登録時に、カスタム次元が間違った順序で設定されます。
- 14257269 -- Financial Management のメタデータ・ルールは、接頭辞または接尾辞が定義されていない場合に失敗します。
- 14247266 -- 一部の多次元マップが正しくインポートされません。
- 14247087 -- RAC 環境では、PROCESS_ID が並べ替えられません。
- 14232523 -- メタデータ属性設定が正しく機能しません。
- 14226555 -- ルールによってロードされたデータを削除するには「データ・ロード・ルール」画面に「すべて削除」ボタンを追加します。
- 14053934 -- メッセージ: [DRILLDOWNAMIMPL] SCENARIO MISSING が SYSOUT ログに表示されます。
- 13776769 -- 任意の期間にアクティビティがないアカウントで、PeopleSoft へのドリルダウンが失敗します。
- 13587906 -- Account Reconciliation Manager のデフォルトの言語は常にアメリカ英語に設定されます。
- 13438487 -- SQL サーバーに表をロードする場合、UNICODE VARCHAR が常に使用されます。
- 13032082 -- 英語以外の言語を使用した場合、メンバー・マッピングのエクスポートが失敗します。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです:

- 16602782 -- インポートされた多次元データ・ロード・マッピングは SQL サーバー環境で機能しません。

回避策: FDMEE データベースで次の SQL を実行して、インポートされたマップを修正します:

```
UPDATE TDATAMAP

SET WHERECLAUSETYPE = NULL

WHERE TDATAMAPTYPE = 'MULTIDIM'

AND WHERECLAUSETYPE = ''
```

- 16584509 -- ライフサイクル管理で、ASCII 以外のアプリケーション名が文字化けして表示されます。
- 16580178 -- 複数の予算改訂に割り当てられているエンティティに対して予算チェックを実行すると、エラーが発生します。
- 16571720 -- メタデータのロードで、Planning に対する自動キューブ・リフレッシュが実行されません。

回避策: Planning にデータをロードした後で、Planning アプリケーションから「データベースのリフレッシュ」機能を実行します。

- 16561574 -- データ・ルールでファイルが指定されていない場合、データ・ロード・ワークベンチでエクスポート機能が失敗します。

回避策: データ・ロード・ルールに有効なファイル名を含めます。

- 16543063 -- 意思決定パッケージに関係なく、「データ・ロード・ルール」画面にすべての予算改訂が表示されます。

回避策: なし。必要な予算改訂は、選択した意思決定パッケージによってフィルタ処理されないため、慎重に選択してください。

- 16524431 -- SQL Server の特定のスキーマ・エントリがデフォルトで"DBO"になります。

回避策: ODI Studio にログインし、FDMEE データベースに接続します。Account Reconciliation Manager サーバーと、Microsoft SQL Server の下の FDMEE サーバー・トポロジに移動してから、スキーマを"dbo"から「epm」に変更します。データ・ロードを再実行します。再起動は不要です。

- 16506321 -- ユーザーが Financial Management ターゲット・アプリケーションに検索次元を追加すると、データが Financial Management ファイルにエクスポートされます。

回避策: インポート・フォーマットから検索次元を削除します。

- 16457209 -- コンパクト配置を実行した後に、ODI エージェントに接続できません。

回避策: 実際の IP を使用して、ホスト・ファイルに localhost エントリを追加します。たとえば、Windows では、c:\windows\system32\drivers\etc\hosts フォルダに「10.111.222.33」 localhost を追加します。

- 16456640 -- ライフサイクル管理では、リリース 11.1.2.2 の区切りファイル・インポート・フォーマットを含むアーティファクトは、FDMEE リリース 11.1.2.3.000 にエクスポートできません。この問題は、将来の更新で修正されます。

回避策: 区切りファイルの詳細を指定するインポート・フォーマットをターゲット・システムに手動で再作成します。

- 16448061 -- リリース 11.1.2.3.000 では、リリース 11.1.2.2.000 からリリース 11.1.2.3.000 へのライトバック・ロード・ルールが失敗します。

回避策: システムで生成されたマップを削除し、必要に応じて再実行します。次にライトバック・ルールを再実行します。

- 16447128 -- リリース 11.1.2.3.000 では、セキュリティ設定のライフサイクル管理のインポートおよびエクスポートで場所別のセキュリティ機能が考慮されません。

回避策: ターゲット・システムで場所別のセキュリティの詳細を再作成します。

- 16388740 -- 重複するツリー・コードがソース・システム内に存在する場合、Fusion ソース・システムの初期化プロセスが失敗します。

回避策: 初期化プロセスを再実行します。

- 16371283 -- タイプが「国」の場合、エンティティ次元が「メタデータ」画面に表示されません。

回避策: Oracle Essbase では「国」の次元クラスを使用しないでください。

- 16371129 -- リリース 11.1.2.3.000 では、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Lifecycle Management のインポート機能がソース期間のマッピングで失敗します。

回避策: ターゲット・システムで期間マッピングを手動で作成します。

- 16324913 -- 検索次元が存在する場合、「検証」タブに不明なエラー・メッセージが表示されます。

- 16267246 -- 勘定科目の次元が指定されていない場合、確認レポートは空白です。

回避策: 確認レポートに勘定科目の次元を含めます。

- 16263348 -- リリース 11.1.2.3.000 では、FDMEE で WebLogic データ・ソース接続が不足します。

回避策: Web Logic 管理コンソールを使用して、データ・ソース aif_datasource の接続プール・サイズを手動で増やします。

- 16237177 -- リリース 11.1.2.3.000 では、確認エンティティ・グループで親およびエンティティのレコードが戻されません。

- 16220846 -- FDMEE アプリケーション共有フォルダで "Everyone" ユーザーに書込み権限が割り当てられていない場合、アプリケーション・フォルダは作成されません。

回避策: フォルダの作成を許可するようにファイル・サーバーの権限を更新します。

- 16165610 -- マップされていない通貨によりロードが失敗し、ユーザーが存在しないというメッセージが表示されます。

回避策: データ・ロード障害が発生した場合は、通貨が正しくマップされていることを確認します。

- 16027311 -- ログ分析ユーティリティを使用して生成された HTML レポートで通知メッセージが文字化けします。

回避策: 英語のメッセージにアクセスします。

- 15954013 -- 従来の Hyperion Financial Management へのメタデータ・ロードにより、FDMEE サービスが停止します。

回避策: J2EE エージェントのかわりに ODI スタンドアロン・エージェントを使用します。

ODI スタンドアロン・エージェントをインストールするには:

1. ファイル MIDDLEWARE_HOME/odi/setup/manual/oracledi-agent \oracledi-agent-standalone.zip を MIDDLEWARE_HOME/odi に解凍します。
2. oracledi.sdk\lib にある適切な HFM ドライバ DLL の名前を変更します。
64 ビットで実行している場合は、HFMDriver64_11.1.2.2.dll を「HFMDriver.dll」に名前変更します。
32 ビットで実行している場合は、HFMDriver32_11.1.2.2.dll を「HFMDriver.dll」に名前変更します。
3. oracledi.sdk\lib を Windows システムのパスに追加します。
4. ODI マスター・リポジトリに新しいエージェントを定義します。
5. MIDDLEWARE_HOME/odi/oracledi/agent/bin/odiparams.bat を編集し、次のマスター・リポジトリ接続情報を更新します: 「SUPERVISOR」パスワード情報および「ODI_JAVA_HOME」。
6. スタンドアロン・エージェントを起動します。
7. FDMEE の「システム設定」ページで「ODI URL」を更新します。

- 15844671 -- 次元間で重複するメンバーが存在する場合、FDMEE は Essbase へのデータのロードに失敗します。

回避策: 重複する次元メンバー名を削除します。この問題は、複数の次元に同じ次元メンバー名が存在する場合に発生します。

- 15833920 -- レポートを実行したのと同じペインにレポートが開かれ、前の画面に戻る方法がありません。

回避策: HTML 以外の出力タイプを選択します。

- 14342028 -- 「クエリー・データ」タブを使用できません。

回避策: レポートを使用してデータをクエリーします。

- 13831793 -- 金額に関して、数値フォーマットではロケールが区別される必要があります。
- 13775349 -- アップグレード後に、Essbase アプリケーションが完全に機能している必要があります。
回避策: アップグレード後に各 Essbase アプリケーションのメタデータをリフレッシュします。
- 13743427 -- 編集モードでのデータ・ロード・マッピングでは、ターゲット勘定科目が表示されません。
回避策: ソースの隣にある「編集」をクリックしてターゲット・メンバーを変更し、そのターゲットを「多次元」画面で更新できます。
- 13623601/16232449 -- リリース 11.1.1.4 から 11.1.2.2.00 へのアップグレード後にデータ・ルールを実行する際、追加のドリルダウン・リンクが作成されます。
回避策: Essbase 管理サービス・コンソール(EAS)で、重複するドリル領域を手動で直接削除します。これは、Planning アプリケーションのセルに、重複するドリル領域が表示される場合にのみ行います。削除が必要な廃止されているドリル領域は、次のような形式になっています:
"年" : "シナリオ" : "バージョン"
たとえば、次のようなものを削除します: "FY10" : "Current" : "BU Version_1"
残すドリル領域は次の形式にする必要があります: "年" : "シナリオ"
たとえば、次のドリル領域は残します: "FY10" : "Current"
- 13558551 -- FDMEE が WebSphere アプリケーション・サーバーに配置されていると、会計エンティティを選択できません。
回避策: ソース・システムに会計エンティティ・グループを作成してください。会計エンティティ・グループを作成した後、「エンティティ」タブで会計エンティティを選択します。
- 13104202 -- EPMA により配置された ASO Essbase アプリケーションに対して、ライトバックが失敗します。
回避策: EPMA により配置された ASO のライトバックはサポートされていません。従来の Oracle Essbase ASO を使用してください。

アップグレードするお客様の FDMEE 手動構成手順

アップグレードするお客様は、次の FDMEE 構成手順を手動で実行する必要があります。

- データ・サーバーの設定はすべてのバージョンからアップグレードするお客様に必要です。
[12 ページの「ERP ソース・システムに基づくデータ・サーバーの設定」](#)を参照してください。

- 11.1.2.1.50X または 11.1.2.2 からアップグレードするお客様は ODI シナリオを再生成する必要があります。
13 ページの「インポート・フォーマットでの ODI シナリオの再生成」を参照してください。
- 11.1.1.4 からアップグレードするお客様には、期間マッピングの作成が適用されます。
13 ページの「期間マッピングの作成」を参照してください。

ERP ソース・システムに基づくデータ・サーバーの設定

ソース・メタデータまたはソース・データ(あるいはその両方)に使用される ERP ソース・システムに基づいて、該当するデータ・サーバーを設定する必要があります。

- ERP ソース(EBS/PeopleSoft/Fusion/JD Edwards/SAP)からインポートする場合、次に示す対象のデータ・サーバーを設定します:
 - EBS_DATA_SERVER - Oracle E-Business Suite General Ledger の場合
 - PSFT_FMS_DATA_SERVER - PeopleSoft General Ledger および Commitment Control の場合
 - PSFT_HCM_DATA_SERVER - PeopleSoft Human Capital Management (HCM) の場合
 - FUSION_DATA_SERVER - Fusion General Ledger の場合
 - JDE_DATA_SERVER - JD Edwards Enterprise (JDE) General Ledger の場合
 - SAP_SERVER - SAP FICO
- メタデータを EPM システムにロードする場合、次のデータ・サーバーを設定します:
 - HFM_DATA_SERVER - Oracle Hyperion Financial Management へのメタデータのロードの場合
 - HPL_DATA_SERVER - Oracle Hyperion Planning へのメタデータのロードの場合

▶ サーバー接続情報を更新するには:

- 1 Oracle Data Integrator コンソールにアクセスします。
- 2 「参照」タブを選択します。
- 3 「トポロジ」を展開します。
- 4 更新する稼働データ・サーバーを選択し、「編集」をクリックします。
たとえば、「EBS_DATA_SERVER」または「PSFT_FMS_DATA_SERVER」を選択します。
- 5 「データ・サーバーの編集」の「JDBCの詳細」で、「JDBCドライバ」にJDBCドライバを入力します。

たとえば、`oracle.jdbc.OracleDriver` と入力します

- 6 「JDBC URL」に JDBC URL アドレスを入力します。

たとえば、`jdbc:oracle:thin:@<host>:<port>:<sid>` と入力します

- 7 「ユーザー」にユーザー名を入力します。
- 8 「JDBC パスワード」にパスワードを入力します。
- 9 「保存」をクリックします。

インポート・フォーマットでの ODI シナリオの再生成

Open Interface アダプタ、JD Edwards アダプタまたは SAP アダプタを使用する場合は、インポート・フォーマットで ODI シナリオを再生成します。通常、ODI シナリオの再生成はソース・データをロードした後に実行されます。

▶ インポート・フォーマットで ODI シナリオを再生成するには:

- 1 「インポート・フォーマット」画面で新しいインポート・フォーマットを定義します。
 1. ソース・システムとアダプタを選択します。
 2. ソース列を適切なターゲット次元にマップします。
- 2 インポート・フォーマット・マッピングが完了したら、「ODI シナリオの再生成」を選択します。

この手順では、インポート・フォーマット・マッピングに基づき ODI シナリオが生成されます。

期間マッピングの作成

FDMEET に基づかないデータ・ロード方式のターゲット・アプリケーションを使用している場合は、データ・ロードを実行する前に期間マッピングを作成します。期間マッピングの構造が異なるため、これらはリリース 11.1.1.4 からリリース 11.1.2.3 にアップグレードされません。

▶ 期間マッピングを更新するには:

- 1 「設定」タブで、「統合設定」を選択し、「期間マッピング」を選択します。
- 2 「グローバル期間」マッピングを定義し、必要に応じて「アプリケーション期間」マッピングを追加します。

▶ メタデータをリフレッシュするには:

- 1 「設定」タブで、「登録」を選択し、「ターゲット・アプリケーション」を選択します。
- 2 アプリケーションを選択し、「メタデータのリフレッシュ」をクリックします。

ODI Studio のインストール

FDMEE をインストールおよび構成する場合、Oracle Data Integrator は自動的にインストールおよび構成されます。Oracle Data Integrator のデータベースは FDMEE と同じデータベース内にあり、Oracle Data Integrator エージェントは FDMEE 管理対象サーバーに配置されます。オプションで、ODI Studio は ODI_Studio_11123.zip を使用してインストールできます。

▶ ODI Studio を zip ファイルからインストールするには:

- 1 「ODI_Studio_11123.zip」を解凍します。
- 2 ディレクトリを<Zip Extract Location>\Disk1\install\<Platform>に変更します。
たとえば、C:\Temp\odi に解凍し、プラットフォームが Windows 64 ビットの場合は、C:\Temp\odi\Disk1\install\に移動します。
- 3 「setup.exe」を実行します。
- 4 JAVA_HOME の入力を求められたら、JDK がインストールされている場所を入力します。
- 5 必要な情報を入力して実行します。

C:/Temp/odi/...../DataFiles/filegroup.jar ファイルが見つかりませんなどの警告メッセージが表示される場合は、「続行」をクリックしてインストールを完了します。

注： ODI マスター・リポジトリは FDMEE スキーマ/データベースにインストールされます。ODI マスター・リポジトリ名の入力を要求されたら、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition の接続情報を入力します。作業リポジトリの名前は"FDMEE"です。

SAP の統合

SAP ERP Financials または SAP BW 統合の使用を計画する場合は、ERPI-SAP アダプタを Oracle パートナの Bristlecone 社の Web サイトからダウンロードする必要があります。該当する Web サイト(http://www.bristleconelabs.com/edel/edel_login.asp)に登録してログイン情報を取得してください。また、SAP Adapter 構成に関する詳細は Bristlecone 社から提供されているドキュメントを参照してください。

ドキュメントの更新事項

EPM System 製品 ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新版は、OTN Web サイトの「EPM System Documentation」領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)からダウンロードまたは表示できます。また、EPM Supported Platform Matrices、My

Oracle Support、およびその他の情報リソースにもリンクしている EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもできます。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットを HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

管理者ガイドの新しい名前

リリース 11.1.2.3 で、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications 管理者ガイドの名前は Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition 管理者ガイドに変更されました。名前は、新しい Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition 製品名を反映するように変更されました。

ドキュメントのフィードバック

製品ドキュメントに関するフィードバックは、次の電子メール・アドレスに送信してください:

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトで EPM Information Development をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。EPM System 製品は、製品のアクセシビリティ・ガイドに記載されているアクセシビリティの機能をサポートします。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の

Oracle Enterprise Performance Management System Documentation Library (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)にあります。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

著作権情報

FDMEE Readme, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。